



弓道部

我々鳥取環境大学弓道部は1~4年生の学生14名が部員です。まったくの初心者や中学生のころからの経験者もいますが、それぞれに目標を持ちながら一丸となって稽古に励んでいます。部活動は主に鳥取市営武道館で行われる週2回の弓道教室で、一般の方々と共に技術の向上に努めています。また、鳥取県内外で行われるさまざまな大会にも出場し、精神面でもお互いを高め合っています。今後とも心・技・体を極めていきたいと思います!!

代表:奥田 珠枝(環境政策経営学科2年)



学生メロディー同好会

私たち学生メロディー同好会は1年生6人、2年生9人、4年生1人の計16人で楽しく活動しています。活動日は各グループによって異なりますが、週に3回、部室や多目的ホールで練習を行っています。現在は5つのグループに分かれ、大学祭での発表に向け練習に励んでいます。また、練習だけではなく、月に1回、親睦会を兼ねた部会を開き、各部員の誕生日にはドッキリ誕生会を企画、夏には海水浴に行くといった、四季折々のイベントを行う、部員同士の仲が良い活発なサークルです。

同好会結成後、約1年半ということもあり、まだまだ学外での発表の回数は少ないですが、今年の3月に大学近辺の老人ホームで、初の学外発表ボランティアを経験しました。最近では、特別養護老人ホーム主催の納涼祭で発表の依頼を受けるなど、勢いに乗ってきました。今後も老人ホームでの発表ボランティアを主体とし、学内はもちろん、学外での活動の幅を広げていきたいと思います。

代表:茗荷 幸也(環境マネジメント学科2年)



サステイナビリティ
Sustainability / 持続可能性

研究所

次世代バイオ燃料の適用性評価

本学では、株式会社タクマ(本社:兵庫県尼崎市、社長:手島肇氏)との間で協定を結び、触媒接触分解技術により廃食用油から製造した「次世代バイオ燃料」をスクールバスの燃料として使用する実証試験を平成22年2月から取り組んでいます。

昨今、エネルギーセキュリティーや地球温暖化の観点から、バイオ燃料(原油や石油ガス、天然ガス、石炭ならびにこれらから製造される燃料以外の、動植物に由来する再生可能エネルギー源の燃料)の利用が進められており、特に食料と競合しない廃棄物系由來のバイオ燃料の開発が強く求められています。

そのひとつである廃食用油からバイオ燃料を製造する方法としては主に、バイオディーゼル燃料(BDF)、水素化バイオ燃料、今回実証試験で用いる次世代バイオ燃料などがあります。

今回の研究では、家庭や事業所などから発生する廃食用油から製造したバイオ燃料を、軽油を燃料とするスクールバスの代替燃料として使用し、その適用性を評価することを目的に取り組んでいます。適用性は「軽油と比較して不具合なく走行できるのか」、「バスへの影響はあるのか」、「運転手に対するアンケート」などにより評価しています。

※接触分解法とは、一般的には触媒の作用によって生ずる分解化学反応のことと、ここでは、廃食用油(油脂)を触媒の作用によって分解し、低沸点軽油留分に変換するのもで、粒状の固体触媒を固定床で使用している。



スクールバスへ次世代バイオ燃料を給油



学生を乗せて運行するスクールバス